

年頭所感

令和六年の新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の五類への移行により、私たちの日常生活も徐々に回復してまいりました。

一方、私たちを取り巻く環境は、脱炭素社会の実現に向けた取り組みの増加、海外情勢の変化に起因する資材価格の高騰、少子高齢化が原因で発生する後継者・技術者不足、労働環境のあり方を見直す働き方改革など、多くの課題がこれまでに以上に顕在化しております。

また、コロナ禍への対応により人々の生活に様々な変化が生まれる中で、建築のあり方も多様化しており、今日ではAIやICT技術との関わりも強まりを見せるなど、建築の役割や機能も複雑化してきています。

このような中、私たち建築設計界も社会環境

の変化や社会的ニーズに即した対応を着実に進めて行かねばならない責任が益々大きくなっていくと感じております。

当組合では昨年引き続き、建築物の木造・木質化の研究と実践、ZEB化の推進、BIM活用による将来の設計環境の探求など、時代のニーズに即した研修を展開してまいります。

併せて、プロジェクトの初期段階からPM（プロジェクトマネージメント）を提供できる体制を整え、発注者支援に資する業務展開を行ってまいりますと存じます。

結びに、皆様方のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げ、また当組合の事業への更なるご支援とご鞭撻をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和六年一月

福島県建築設計協同組合 代表理事 鈴木宏幸